

など福祉の分野を超えた仕組みづくりに奮闘中だ。

同事業に着手する自治体はまだ少ない上、これまで経験してこなかった児童福祉分野にも携わらなくてはならない。推進員同士で横

津別町社協

### 立花 さおり

のつながりをつくって前向きだ。情報交換したいが、新型コロナウイルスの影響から福祉分野に転業で対面の研修会が中止となり、情報量の少ないのが悩みとしながらも「柔軟な発想で、地域包括支援センター支援するのが地域福祉の面白味でもある」とみ重ねる中、「地域福祉

### 分野を超えた

えに行くのが遅くなることも、「そんなときでも保育園側が柔軟に対応してくれるなど、私自身もいろいろな人に支えられて生活できている」。支える、支えられるを超えた共生のま

道厚生局、道経済産業局などによる「北海道的なヘルスケア産業創出セミナー」がオンラインで開かれた。

己負担による保険外サービス「大学」で社会参加、交流に向けたプログラムを用意するなど、公的サービス卒業後の受け皿をつくることで、「喜んで卒業を目指す」仕組みとし、介護費用減につなげたという。松尾社長は「後期高齢化率向上と二つの多様化、人口減少による税収減によって、自助・互助の醸成と共助の効率化が求められる。民間企業による自治体から介護予防、

札幌市南区の定山溪病院は食べ物を咀嚼(そしゃく)したり、飲み込むことに障害のある人を対象とし、嚥下機能全般を評価するための短期入院プログラムを開設した。嚥下機

## 札幌市南区・定山溪病院

能評価を入院対応で実施している医療機関は道内には珍しく、綿密な検査が可能となるほか、通院の難しい重度高齢者や遠方居住者を受け入れられるメリットもあるという。

# 嚥下機能評価へ短期入院プログラム開設



嚥下運動の状態を詳しく調べるため病室で嚥下内視鏡検査などを行う

こすリスクがある。

同病院の実施する嚥下機能全般を評価する短期入院プログラムは、4泊5日が基本で、個別の状況に応じて短縮、延長可能。入院中に診察、血液検査、嚥下内視鏡検査(V E)や嚥下造影検査(V F)を行い、嚥下運動の状態を

作業療法士、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなどがチームで評価に当たる。十川純光STは「咽頭や口内だけでは不十分で、全身の状態を評価することが重要。チー

## 通院困難な重度者や遠方も受け入れ可能

高齢者や脳卒中の後遺症、パーキンソン病など神経難病患者に多岐にわたる摂食嚥下障害、誤嚥性肺炎をはじめ低栄養、脱水、窒息などといった命に関わる害は、詳しく調べる。同病院では、医師、言語聴覚士(ST)をはじめ、法を探索し、誤嚥など

## 多職種チームで誤嚥等リスク管理、リハ進め方アドバイス

のリスク予防や今後の栄養管理、リハビリの進め方をアドバイスしている。菊地政経経営管理部長は「当院には専門のSTが17人勤務しており、入院患者へ機能評価を従来から行ってきた。嚥下障害のある人が入所している介護施設・事業所や在宅介護をしている家庭では、食事提供について悩んでいるケースも多く、そのような需要に応えるために今回のプログラムを始めることにした」と話している。